

## 2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	会話・発音(中級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担 当 教 員	中村 絵	実務経験とその関連資格	2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校田部で半年間、英語を教えるかわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。			
《授業科目における学習内容》						
日本語の間違えやすい発音の区別、会話におけるなめらかな流れ、場面に応じた慣用表現を身につける。様々な場面での会話の表現を勉強する。相手に応じて話し方が変わるので、その違いと使い分けについて勉強する。						
《成績評価の方法と基準》						
a. 素点(定期試験):70% b. 出席評価点 :20% c. 平常評価点(グループワークや発表態度) :10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『Shadowing 日本語を話そう!初～中級編』(くろしお出版)、『リズムで身につく日本語の発音』(スリーエーネットワーク) 『ブラッシュアップ日本語会話』(スリーエーネットワーク)、『なめらか日本語会話』(アルク)から抜粋、オリジナルハンドアウト						
《授業外における学習方法》						
場面や相手によってふさわしい表現が使えるように、練習してみましょう。文化面を知った上で会話力を深めていってください。普段から日本語で考え、話すことは会話力を高めるために大切なことです。						
《履修に当たっての留意点》						
授業では会話の場面と機能を確認し、ペアでまたはグループで何度も練習してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	拍がとれるようになる。 様々な相手に許可を求める、与える表現が使えるようになる。	使用教材から抜粋	課題	
		各コマにおける授業予定	発音(拍) 許可(1)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	縮約された言葉を正しく発音できるようになる。 様々な許可を求められたとき、受けない、制限を述べることができる。	使用教材から抜粋	課題	
		各コマにおける授業予定	発音(縮約形) 許可(2)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	アクセントを理解し、正しいアクセントで発音できるようになる。 伝言を頼む、申し出ることができる。	使用教材から抜粋	課題	
		各コマにおける授業予定	発音(アクセント) 伝言(1)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	イントネーションを理解し、使えるようになる。 電話をかけることを申し出る、後で電話をしてほしいと願う。	使用教材から抜粋	課題	
		各コマにおける授業予定	発音(イントネーション) 伝言(2)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	文で区切りやポーズの場所を見つけ、区切りやポーズを置きながら文を読むことができる。依頼をする、受けることができる。	使用教材から抜粋	課題	
		各コマにおける授業予定	発音(区切り・ポーズ) 依頼(1)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語のプロミネンスを理解できるようになる。 依頼を断る、諦めたことを伝えることができる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	発音(プロミネンス) 依頼(2)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	相手や場面に応じて、適切に謝ることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	シャドーイング(1) 謝る(1)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	相手や場面に応じて、謝られた時に答える表現を学んで、答えることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	シャドーイング(2) 謝る(2)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	相手や場面に応じて、適切に謝ったり、それに対してこたえられるようになる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	シャドーイング(3) 謝る(3) ロールプレイを中心に		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	相手や状況に応じて、表現を使い分けて、誘うことができるようになる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	シャドーイング(4) 誘う(1)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	相手や状況に応じて、誘われた時に、適切に受け入れたり断ったりすることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	シャドーイング(5) 誘う(2)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	相手や状況に応じて、表現を使い分けて、誘って、答えることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	シャドーイング(6) 誘う(3) ロールプレイを中心に		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	アドバイスをする時の表現を学んで、相手や状況に応じて、アドバイスをすることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	シャドーイング(7) アドバイス(1)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	アドバイスをされた時の答え方を学んで、相手や状況に応じて、アドバイスに対して答えることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	シャドーイング(8) アドバイス(2)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	相手や状況に応じて、アドバイスをしたり、アドバイスに答えることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題
		各コマにおける授業予定	シャドーイング(9) アドバイス(3) ロールプレイを中心に		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	会話・発音(中級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	501教室
担 当 教 員	中村 絵	実務経験とその関連資格	2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。			
《授業科目における学習内容》						
日本語の間違いやすい発音の区別、会話におけるなめらかな流れ、場面に応じた慣用表現を身につける。様々な場面での会話の表現を勉強する。相手に応じて話し方が変わるので、その違いと使い分けについて勉強する。						
《成績評価の方法と基準》						
a. 素点(定期試験):70% b. 出席評価点 :20% c. 平常評価点(グループワークや発表態度) :10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『Shadowing 日本語を話そう! 初～中級編』(くろしお出版)、『リズムで身につく日本語の発音』(スリーエーネットワーク)、『ブラッシュアップ日本語会話』(スリーエーネットワーク)、『なめらか日本語会話』(アルク)から抜粋、オリジナルハンドアウト						
《授業外における学習方法》						
場面や相手によってふさわしい表現が使えるように、練習してみましょう。文化面を知った上で会話力を深めていってください。普段から日本語で考え、話すことは会話力を高めるために大切なことです。						
《履修に当たっての留意点》						
授業では会話の場面と機能を確認し、ペアでまたはグループで何度も練習してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	相手をほめる時の表現を学んで、相手や状況に応じて、ほめることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題	
	各コマにおける授業予定	シャドーイング(10) ほめる(1)				
第17回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	褒められた時の答え方を学んで、相手や状況に応じて、答えることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題	
	各コマにおける授業予定	シャドーイング(11) ほめる(2)				
第18回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	相手や状況に応じて、ほめたり答えたりすることができるようになる。	使用教材から抜粋	課題	
	各コマにおける授業予定	シャドーイング(12) ほめる(3) ロールプレイを中心に。				
第19回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	文句を言う、謝る、言い訳をすることができる。	使用教材から抜粋	課題	
	各コマにおける授業予定	シャドーイング(13) 遠回しに不満を伝える、謝る。				
第20回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	まとめ	使用教材から抜粋	課題	
	各コマにおける授業予定	シャドーイング(14) 総まとめ				